

授業科目名	【G】 【H】	プレゼミⅡ プレゼミⅡ	区分 必修	開講年次	【G】1 【H】1	単位数	【G】2 【H】2	
科目区分	専門科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブタイトル	法律学入門				担当者	小林 伸一		
授業概要	【概要】	法律学上の基礎概念や基礎理論について演習形式で講述する。						
	【到達目標】	受講生全員が法律学上の基礎概念や基礎理論を把握し、これにより、法律学の修得に必要な不可欠な論理的な理解力の下地を作る。						
履修条件	法学入門 憲法概論 民法概論のいずれの単位も取得していることが望ましい。							
アクティブラーニングの方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【－】	グループワーク	【－】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	－ (当てはまらない)						
他科目との関連性	本演習は、受講生がプレゼミⅠにおいて修得した知識を前提にして進める。また本演習では、前期において開講された法学入門、憲法概論、民法概論のそれぞれの講義内容を織り込んでいくつもりである。							
教科書	必要に応じて、Google Classroom上に講義レジュメや判決文を提示する。							
参考書	田中成明著『法学入門 新版』(有斐閣 2016年)、芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法 第八版』(岩波書店 2023年)、2025年度の六法							
評価方法	google classroom上に2回にわたって課題を提示し、これに対する解答文を基に成績評価を行う。							
フィードバック方法	課題ごとに、模範解答を提示する。また、節目節目で講述内容に対する質問や意見を受け付け、これに回答していく。							
評価基準	本演習の趣旨・内容につき、これを十分に把握し、そのことが課題に対する解答文に顕著に反映されていると判断できる受講生は、「S」または「A」とする。上記について必ずしも十分とはいえない受講生は、その程度に応じて「B」または「C」とする。演習内容に対する理解が明らかに不十分で、かつ課題解答が明らかに不備である受講生は、その程度に応じて「D」または「E」とする。正当な理由なく課題解答の提出しない受講生は、「F」とする。							

授 業 科目名	【G】	プレゼミⅡ	区 分	開講年次	【G】1	単位数	【G】2
	【H】	プレゼミⅡ	必 修		【H】1		【H】2
授業内容	<p>私が以下の項目について講述し、これを基に受講生全員で質疑討論を行う。</p> <p>法の規範的機能、法の社会的機能、法の究極的な目的 法の解釈方法 制定法(成文法)意義と種類 判例法の意義とその読解方法</p>						
予習内容	<p>次回の演習項目について、文献やインターネットによって調査する。 予習は、各120分程度を目安としてください。</p>						
復習内容	<p>演習時、受講生は、講述内容と質疑討論の内容をノート採取しなければならない。演習後は、ノートの記述内容を確認する必要がある。 復習は、各120分程度を目安としてください。</p>						
その他	<p>Google Classroomにアクセスできる環境を整える必要がある。また演習時、講義レジュメ、六法、筆記用具、ノートを必ず持参すること。受講のためにどうしても必要な場合を除き、受講中のPCやスマートフォンの使用は厳禁とする。</p>						